東京ジャーミイ金曜日のホタバ

2005年6月3日

預言者の立派な徳

ムスリムの皆様。イスラームの教えほど、徳というものに重要性をおく宗教、もしくは思想を見出すことはできません。預言者ムハンマドは、「イスラームとは、立派な徳である。」とおっしゃられ、この件についての重要性を示されました。

預言者ムハンマドが美徳を推奨され、また悪い性質を注意されているハディースは、一冊の本にできるほどです。「信者たちのうち、信仰の上でもっとも完成された者は、もっとも立派な徳をもつ者である。」とおっしゃられ、また美徳を自ら体現され、人々の模範となられたのでした。預言者ムハンマドは、にこやかで、礼儀正しく上品であられ、よく気がつき細やかな心を持っておられました。厳しく、人を傷つけるような方ではありませんでした。きついこと、品のないことを口にされることはありませんでした。他人を非難したり、誰かの恥となることをその人に対して面と向かって批判したりすることもされませんでした。誰かの、よくない行動を目にされた時は、「あなた方の中で、これこれをしている方々がいるようだ。」という形で話されました。このようにして、その過ちを犯したのが誰であるかを明らかにせず、誰も傷つけることなく、過ちをただされたのでした。誰かの言葉を中断することもなさらず、話し終えるまで聞いておられました。口論は好まれず、必要以上に長々と話されることもなく、また誰かの秘められた行為を探ることもなさいませんでした。アッラーに対して不敬である場合以外、ご自身に対してなされたどのような悪事は、それがどのようにひどいものであれお許しになられ、また事情が許す限り、報復処置をとられることもありませんでした。

この上なく高潔であられ、また恥知らずでもあられませんでした。凡ての人に平等に対応され、金持ち、貧者、皇帝、奴隷などの区別もされませんでした。あらゆる観点から、信用の置ける方であられました。約束は、必ず、時をたがえず果たされました。冗談であれ、嘘をついたところを見た人は誰もいませんでした。だから、まだ預言者となられる以前にすら、「信頼できる人」と呼ばれていました。結果として、預言者であることが知らされた時、彼を信じなかった人々でさえ、彼に対して「嘘つきだ、嘘をついている。」とは言わなかったのでした。もっとも近い親戚たちをサファの丘に集められ、彼らをイスラームに招くために「あなたたちに、この山の後ろに敵の騎兵たちがいると私が言えば、信じますか。」といわれた際、彼らは「私たちは皆信じる。あなたは嘘はつかない人だ。」と答えたのでした。彼はご自身がこのようであられるように、皆が正直であることをも求められました。

ムスリムの皆様。アッラーの使徒（彼の上に平安あれ）は、人々のうちもっとも気前のよいお方でもあられました。手に入れられたものは全て、それを必要としている人々に分け与えられ、何も受け取ったものがない人はいないほどでした。非常に謙遜され、謙虚な方でした。集まりに来られた際、彼のために立つ人がいることを望まれず、空いている場所を見つけて座られました。友人たちの間に座られる際に、足を伸ばされることはありませんでした。友たちは、あらゆる仕事を行なう時、それを名誉と感じましたが、常にご自分のことはご自分でされ、家庭では婦人たちを助けられました。賞賛されること、過度に敬意を示されることを好まれませんでした。貧しい人々とともにあられ、貧者、未亡人、よるべのない人たちの役に立たれることを喜ばれました。何であれ手に入ったものを食され、手に入った衣服を身につけられました。食べるものが何も見つけられない時は、空腹のまま眠られたこともありました。

あらゆる仕事を、完全な均衡と秩序のうちに行なわれました。礼拝やイバーダの時間、睡眠や休息のための時間、訪問客のための時間がきちんと定められていました。時間を無為に過ごされることはなく、全ての瞬間を有益な仕事によって有意義なものとされました。「人々の多くは、二つの恵みの価値の認識において間違いを犯している。すなわち健康と、空いた時間。」とおっしゃられたのでした。

子供時代から１０年、マディーナで仕えていたアナスは、「私はアッラーの使徒（彼の上に平安あれ）に１０年間お仕えしました。一度なりとも、気分を害され、『おい、何でこんなことをしたんだ、何でこれをしなかったんだ。』と私を咎められたことはありませんでした。」といっています。預言者ムハンマドが自ら実践されながら示された、この立派な徳のあり方は、私たちムスリムのためのものではないでしょうか？